

授業研究論文

# 道徳授業案

## 「心のなかの自分らしさ」

宮崎 正康 \*

Class Plan for Individuality

MIYAZAKI Masayasu

The purpose of this thesis is to help the primary school children think about their individuality.

It is very important for the children to foster individuality. Individuality is the identity of children.

With regard to elementary school children, in the first half of the class, I will think about the advantage of fostering individuality. In the second half of the class, I will discuss individuality as harmony in society.

Children's repressing their individuality when knocking against the society when children foster individuality and just setting it to the society are amusing. Children are expected to notice the individuality fostered while devising it in society.

Moreover, children are expected to catch their own individuality objectively by this class.

キーワード: 個性、自分自身、客観的、社会との調和

**Keywords:** individuality, identity, objectively, harmony with society

---

\* 東洋英和女学院大学 国際社会学部 教授  
Professor, Faculty of Social Sciences, Toyo Eiwa University

## 1 この授業について

この授業は、小学校中学年高学年から中学生・高校生を対象に考えている。また大学生にも授業出来る。

小学校低学年でも授業できると思えるが、低学年の場合は、授業案の教師の言葉使いをやさしく変える必要がある。

中学校の新学習指導要領では、「自己」「個性」「自分」「自分らしさ」などについて、「自己を見つめ、自己の向上を図るとともに、個性を伸ばして充実した生き方を追求する」ととらえられている。（「中学校新学習指導要領・生きる力・第3章道徳」の「第2 1.主として自分自身に関すること（5）」）

一方、小学校の高学年では、「自己」「個性」「自分」「自分らしさ」といったことが、考えられているが、小学校中学年低学年では、それらにふれられていない。

すなわち、「小学校新学習指導要領・生きる力・第3章道徳」〔第5学年及び第6学年〕「第2 1.主として自分自身に関すること（6）」では、「自分の特徴を知って、悪いところを改めよい所を積極的に伸ばす」と、「自分」にふれられている。

しかし〔第1学年及び第2学年〕〔第3学年及び第4学年〕では、「自分」「自分らしさ」「個性」などにふれられていない。

「小学校新学習指導要領・生きる力・第3章道徳」は、このように、「自分」「自分らしさ」「個性」を高学年から考えさせるとしているが、小学校中低学年でも、「自分」「自分らしさ」「個性」は大切と思う。

この授業では、「心のなかの自分らしさ」を生徒（児童）に考えてもらい、さらに「それが小さくなったほうが良いか」「大きくなったほうが良いか」などと検討させる。この検討により、「自分らしさ」や「個性」や「自分」を客観化して考えるトレーニングを始めていることになると思われる。

また「自分らしさ」や「個性」や「自分」を客観化して考えることにより、「悪いところを改めよい所を積極的に伸ばす」という考えが、生徒や児童のほうから出てくる可能性がある。

この授業は、高校生・中学生や小学生高学年のみならず、小学生中低学年でも実践可能であり、「自分らしさ」「個性」「自分」を児童自身に考えさせることが出来るように思われる。

## 2 本時のねらい

この授業のねらいは、「生徒や児童が、自分らしさ・個性・自分・自己を、自分自身で客観的に考えるトレーニングをすること」である。

## 3 授業の展開

授業が始まると、授業ノート（B4の白い用紙、本稿では省略。授業ノートには、本時のテーマ「心のなかの自分らしさ」を書く。また授業評価（授業に満足・普通・不満など）のアンケートを書く）を配布する。次の説明と指示を行う。

説明1（ゆっくり話す）今日は、自分らしさについて考えます。

心のなかの自分らしさを考えます。

「早く走れる」というのも、自分らしさです。しかしこれは、<sup>からだ</sup>身体<sup>の</sup>力、身体能力についての自分らしさです。

今日考えたいのは、心のなかの自分らしさです。

自分は「やさしい」のが、心のなかの自分らしさだと思う人もいるでしょう。「気が強い」

とか、「はずかしがり」とか「のんびりや」などが、心のなかの自分らしさだと言人もいるでしょう。

発問1 みなさんの「心のなかの自分らしさ」は何でしょう。そう思う理由も書いてください。

指示1 授業ノートのAの枠に書いてください。3分間です。

教師は、「学習のめあて」と「学習メニュー」を黒板に貼る。

学習の「めあて」	
「心のなかの自分らしさについて考える」	
学習メニュー	
はじめに	2分
課題1	11分
課題2	7分
課題3	13分
課題4	12分
まとめ	5分

教師は、タイマーを課題1の個別学習3分にセットする。

(自律学習ができるクラスでは、タイマーは不要である。「学習メニュー」は実際の時間を記入し、生徒(児童)が教室前方の時計で自ら時間管理をする。以下同様。)

教師は、あまり移動せず前方から、鉛筆が動いていない生徒(児童)を確認しておく。

3分後、次の指示をおこなう。

指示2 自由にグループをつくって、意見交流しなさい。<sup>(1)</sup>

友だちから新しい意見が出たら、授業ノートのBの枠に、書き加えなさい。

3分間です。

自由なグループでの意見交流になれていないクラスでは、4人の学習班による意見交流でも良い。(以下同様。)

次の指示は、グループでの意見交流のルールとして、普段から周知させておく。なお、本授業では友だちの述べる「自分らしさ」を否定したり、批判してはいけないことをとくに付け加える。

指示3 友だちの意見を否定してはいけません。

今日は、「自分らしさ」を考えます。友だちの「自分らしさ」を否定したり、批判したりするのは失礼なことです。友だちの意見を大切にしなさい。

自分の意見を取り下げて、友だちの意見に乗り換えてはいけません。自分の意見を大切にしてください。

学習班で意見をまとめてはいけません。

友だちの意見も、自分の意見も大切にしてい意見交流してください。

教師は、あまり動かず、見やすい位置から生徒（児童）の様子をみる。

1人で、分からなそうにしている生徒（児童）がいれば、その生徒（児童）と近くのグループに、学び合いをなさいと呼びかける。その生徒（児童）がグループに参加するのを確認する。

意見交流が進まないグループがあれば、教師はそばに行って、「他のグループと意見交流しなさい」と促す。生徒（児童）たちが動くのを確認する。

生徒（児童）が全員授業ノートに記入していることを確認する。

3分後に座席を、教壇のほうに向いたおおまかな円形にする。

チョークリレーで発表を求める。<sup>(2)</sup> 生徒（児童）は、名前と「心のなかの自分らしさに」を黒板に書く。すぐ後ろに並んで、間を開けず次々書くようにする。これはチョークリレーのルールにしておく。

見ている生徒（児童）は、板書で新しい意見が出れば、授業ノート（Cの枠）にすばやく書き写すことをルールとしておく。

(予想される生徒（児童）の発言)

- ・やさしい
- ・あたたかい
- ・はずかしがりや
- ・上手になろうとする（向上心がある）
- ・何かぬけたところがある
- ・天然
- ・好奇心がある
- ・ずぼら
- ・マンガ・アニメが好き
- ・他人を思いやる
- ・人を笑わせようと思っている（受けをねらってる）
- ・元気
- ・ツンデレ
- ・まじめ
- ・のんびりや
- ・自己主張する
- ・親切
- ・明るい
- ・かわいい
- ・新しいものが好き。など。

生徒のチョークリレーが黒板の2列の下までくれば、いったん止める。

説明2 たくさん自分らしさが出ました。

発問2（黒板をやさしく示しながら）これらの自分らしさが、小さくなったほうが良いと思いますか。どうでしょうか。その理由は何ですか。

指示4 授業ノートの D の枠に書いてください。

「私の（僕の）自分らしさは、○○○です。小さくなると○○○。その理由は、○○です」と書いてください。3分間です。

次の模造紙を用意して、黒板に貼る。

小 自分らしさ → ?
----------------

と板書。

3分後、生徒（児童）の挙手による相互指名で発言を求めていく。生徒（児童）は板書を、授業ノートのEの枠に書き写す。

教師は、「友だちの発言を聞いたら、すぐ授業ノートのEの枠に書いてください。黒板の先生の字で確認してください」と指示する。これは、生徒（児童）の発言の板書を書き写すときのルールにしておく。

(予想される生徒（児童）の発言)

- ・自分らしさは「やさしい」です。 小さくなるのは困ります。やさしい自分が好きだからです。

		小	
	自分らしさ	→	?
名前	やさしい		×

と模造紙の下に板書する。

ここの授業の展開は、ゆっくり進める。

相互指名で生徒（児童）がどんどん先に進めないようにする。

生徒（児童）1人の発言ごとに止めて、きちんと板書する。（以下同様）

自分らしさを言い忘れた生徒（児童）には、自分らしさは何だったっけと聞く。

- ・自分らしさは「元気」です。元気でなくなったらたいへん困る。理由は、うんと遊べないからです。

名前	元気		××
----	----	--	----

- ・自分らしさは、「ずぼら」です。「ずぼら」は、小さくなってほしい。「ずぼら」なのが自分らしいのだけど、○年生になって、いつまでもずぼらではいけないと思っている。

名前	ずぼら		○
----	-----	--	---

発言は、3、4人くらいにする。余り時間を取らない。

発問3 では、逆に自分らしさが、大きくなったほうが良いと思いますか。どうでしょうか。その理由は何ですか。

指示5 授業ノートの F の枠に書いてください。

「私の（僕の）自分らしさは、○○○です。大きくなると○○○。その理由は、○○○です」と書いてください。3分間です。

発問2にたいする生徒（児童）の発言で、すでに「元気は小さくなったら困る。うんと大きくなったほうが良い」などと、出ていれば、その生徒（児童）の発言を使って、次のように発問3を行う。

（黒板を示しながら）「○○君は、元気は小さくなったら困る。大きくなったほうが良い、と言いました。○○君のように、自分らしさは大きくなったほうが良いと思いますか。どうでしょうか。」

次の模造紙を用意して、黒板に貼る。

		大	
	自分らしさ	→	?

教師は、あまり動かず、見やすい位置から生徒（児童）の様子をみる。鉛筆が動いておらず、書いていないと思われる生徒（児童）を確認しておく。

3分後、次の指示をおこなう。

指示6 さっきと同じように自由にグループをつかって、意見交流しなさい。  
友だちから新しい意見が出たら、授業ノートの G の枠に、書き加えなさい。  
4分間です。

自由なグループでの意見交流に関する教師の指導は、前述と同じ。

4分後に座席を、教壇のほうに向いたおおまかな円形にする。

生徒（児童）の挙手による相互指名で発言を求めていく 相互指名がとぎれれば、教師の許可のもとに生徒（児童）が個別指名しても良い。

生徒（児童）の発言は、名前とともに板書する。生徒（児童）は板書を、授業ノートの H の枠に書き写す。

（予想される生徒（児童）の発言）

・自分らしさは「あたたかい」です。大きくなってからもかわらない。理由は、あたたかい自分が好きだからです。

名前 あたたかい あたたかい自分が好き ○

と模造紙の下に板書する。

自分らしさを言い忘れた生徒（児童）には、自分らしさは何だったっけと聞く。

・自分らしさは、「サッカーが上手になりたい」。もっともっと上手になりたい。理由は、少年チームの○○○に負けたくないからです。

名前 上手になりたい ○○○に負けたくない ○

・自分らしさは、「はずかしがりや」です。「はずかしがりや」が大きくなるのはいやです。理由は、あまりはずかしがらずに他人と話したいからです。

名前 はずかしがりや 他人と話したい ×

・自分らしさは、「自己主張する」です。大きくなるのは抑えたいです。理由は、あまり自己主張が強すぎて他人とぶつかるのはまずいように思うからです。ほどほどにしたいです。

名前 自己主張する 他人とぶつかる ×

・自分らしさは、「親切」です。だけど、ほどほどにしたいです。あまり親切すぎるとお節介になって、いやがられるかもしれないからです。

名前 親切 ほどほど やりすぎるとお節介 ○×

・自分らしいは「まじめ」です。「まじめ」が自分らしいのだけれど。小さくなるのもいやだけれど、大きくなってまじめすぎるのもいやだ。理由は、今くらいがちょうど良いからです。

名前 まじめ	今くらいが良い	×
--------	---------	---

生徒（児童）の発言が面白く展開している場合は、このまま生徒（児童）の発言を求めていく。残り5、6分になれば、まとめを書かせる。

「ほどほどが良い」などの発言が続いて、生徒（児童）の発言がパターン化して、上滑りになっていると思った場合は、次の発問をする。

また、もう少し焦点をしぼって議論を深めたほうが良いと思った場合も、次の発問をする。

発問4 自分らしさは、大きくなると、他人とぶつかるのでしょうか。どう思いますか。 指示7 授業ノートの、Iの枠に書いてください。2分間です。
---

発問3にたいする生徒（児童）の発言で、すでに「親切なのが自分らしいけれど、ほどほどにしたいです。あまり親切すぎるとお節介になって、いやがられるかもしれないからです」といった児童の発言があれば、その生徒（児童）の発言を使って、次のように発問3を行う。

「〇〇さんは、親切が大きくなって、親切すぎるとお節介になって、いやがられるかもしれない」と言いました。親切が大きくなると他人とぶつかるかもしれないのですね。自分らしさは、大きくなると、他人とぶつかるのでしょうか。どう思いますか。

指示8 この質問の後は、友だちの意見に賛成したり、反対・批判したりしてもかまいません。ただし友だちの「自分らしさ」は、否定してはいけません。例えば、自分らしさを「かわいい」と言っているのを、「かわいくない」などと言ってはいけません。「他人とぶつかるのでしょうか」という点について、議論してください。（2度繰り返す。）
--

こういう（補助）発問のあとは、互いに友だちの意見に賛成したり、反対・批判したりしても 良い。この議論のルールを、普段から周知させておく。

議論のルールは、次のとおりである。

	自分の意見	友だちの意見
最初の（ノート）発言	変えない	—
グループでの意見交換	変えない	批判しない
一斉授業の発言	変えない	批判しない
「友だちの意見に賛成の意見や、反対の意見がありませんか」	変えない	批判しても良い
まとめ	変えても良い	批判しても良い

2分後、自由なグループになるよう指示する。

指示9 さっきと同じように、自由なグループになって意見交流しなさい。  
友だちから新しい意見が出たら、授業ノートのJの枠のところに、書き加えなさい。  
4分間です。

次の模造紙を用意して、黒板に貼る。

大 他人
自分らしさ → ?

4分後、時間があれば、生徒（児童）の挙手による相互指名を求めていく。

（予想される生徒（児童）の発言）（生徒（児童）は板書を、授業ノートのKの枠に書き写す。）

・親切が大きくなっても、他人への気配りで、お節介にならないように出来ると思う。そういう配慮をするのも親切と思う。僕は、「おとなしい」が「自分らしい」と思うのだけれど、あまりおとなしすぎると、社会では、なにも自分で出来ないと思われたり、協調性が無くて他人とぶつかるかもしれないと心配になっている。

（教師は、発言した生徒（児童）が、自分の自分らしさを言わなければ、「あなたの自分らしさは何んですか?」「それは、大きくなったら、他人とぶつかると思う?」と聞く。）

名前 名前 親切	工夫 ○
名前 おとなしい	心配 ×

・「マンガ・アニメが好き」が自分らしいけれど、もっとマンガ・アニメが好きになるとオタクになって、他人と会話出来なくなるように思う。他人と会話出来なくなるというのも、他人とぶつかっているのだと思う。だから僕も自分らしさが大きくなると他人とぶつかるかもしれないと思っている。

名前 マンガ・アニメ 会話無し	×
-----------------	---

・僕も「マンガ・アニメが好き」が自分らしいけれど、もっともっとマンガ・アニメが好きになるとマンガ・アニメが好きで友だちが増えていくと思う。他人とぶつかるというより、友だちが増えていく。

名前 マンガ・アニメ 友だち増	○
-----------------	---

・私は「明るい」が自分らしいのだけれども、明るくはしゃぎすぎると、いやがる人もいるかもしれない。その時は他人とぶつかるのだけれど、明るくはしゃぎすぎが嫌な人の前では、普通の明るさにすれば良いと思う。工夫すれば、自分らしさを大きくしても他人とぶつかることは無いように思う。



名前	明るい	工夫	<input type="radio"/>
----	-----	----	-----------------------

・僕は「上手になりたい」が自分らしいと思う。とくにサッカーが上手になりたい。もっと上手になれば、他のサッカーが上手な人と組んでチームを強くしていける。他人とぶつかるというより、他人と協力して、上手になって、チームを強くしていきたい。

名前	上手になりたい	協力	<input type="radio"/>
----	---------	----	-----------------------

・私は「かわいい」が自分らしい。かわいこぶりっこが嫌な人とはぶつかるかもしれないけれど、そういう人の前では不自然なかわいこぶりっこなんかしない。かわいいを大切に大きくしていきたい。グループでも、自分の意見も友だちの意見も大切にして意見交流する。自分らしい「かわいい」も、他人の自分らしいも大切にそれぞれ大きくしていけると思う。

名前	かわいい大切	工夫	<input type="radio"/>
----	--------	----	-----------------------

・心のなかの自分らしさを考えているのだから、他人とはぶつからないようにできると思う。

名前	心のなかの自分	工夫	<input type="radio"/>
----	---------	----	-----------------------

・心のなかだけの自分らしさなんて、無いと思う。自分の外に出て、他人と関わりを持たなければ、自分らしさはわからない。

名前	他人と関わることで 自分らしさがでる	<input type="radio"/>
----	-----------------------	-----------------------

・他人には分からない「心のなかの自分らしさ」はあると思う。それを否定すると、自分でなくなってしまう。など。

名前	心のなか	自分そのもの	?
----	------	--------	---

なお「自分らしさが大きくなると、他人とぶつかるので、ほどほどにする」といった自己を抑制する発言ばかりが続くようなら、教師は、「これらの発言と、私の考えは違うという人はいますか?」と、力まず淡々と質問する。

それでも発言がなければ、本時は静かに児童にまとめを書かせる。

これ以上の誘導はしない。

日頃の授業や特活の指導などのすべてを見直す。

のこり5、6分くらいになれば、「まとめを、次の観点から自由に選んで、書きなさい。まとめは、裏に書きなさい」と指示する。

教師は、授業をまとめたり、意義づけたりしない。

- ①友だちの意見を振り返りながら、今日の授業について自分の感想を書きなさい。
- ②自分の意見が変わった場合は、変わった内容と、その理由を書きなさい。
- ③「自分らしさ」は、大きくなると、他人とぶつかるのでしょうか。どう思いますか。

このまとめの観点は、あらかじめ模造紙に書いておいて、黒板に貼る。

最後の黒板の様子をデジカメなどで写しておく。

授業ノートを提出させる。後に、生徒（児童）のノート発言のすべてを、デジカメでとった黒板の様子とともに学級通信にのせて、生徒（児童）に配布する。

授業の全体を生徒（児童）に返す。

#### 4 おわりに

この授業について、いくつかの問題を述べておきたい。

(1) この授業は、道徳授業の型としては、教師が資料を提示して生徒（児童）に考えさせる授業では無く、生徒（児童）が意見や事例をたくさん発言して、そのなかで考えて行く授業である。

(2) 「発問1 みなさんの「心のなかの自分らしさ」は何でしょう。」に対する生徒（児童）の発言では、中学校や小学校の「新学習指導要領・生きる力・第3章道徳」に出てくる「徳目」のいくつか、「自分らしさ」として児童から出てくるように思われる。

小学校〔第5学年及び第6学年〕で言うと、次のような「徳目」である。

「節度を守る」「高い目標を立てる」「希望」「勇気」「くじけない」「自由」「責任」「誠実」「明るい」「楽しい」「真理」「新しいものを求める」「工夫」「礼儀」「真心」「思いやり」「親切」「信頼」「友情」「助け合う」「謙虚」「広い心」「感謝」「生命を尊重」「美しいものに感動する」「公德心」「差別が無い」「公正」「公平」「正義」「主体的」「父母を敬愛」「役に立つ」「外国を大切に」「日本人の自覚」「親善」など。

教師は、これらの生徒（児童）の「自分らしさ」を肯定的に受容して受け止める。

しかし「自分らしさ」として、「はずかしがり」「のんびり」「おこりんぼ」など、「新学習指導要領・生きる力・第3章道徳」に出てこないある種の「徳目」も出てくると思われる。次のような「徳目」である。

「ずぼら」「のんびりや」「マンガ・アニメが好き」「はずかしがりや」「何かぬけたところがある」「天然」「ツンデレ」「かわいい」「おこりんぼ」など。

教師は、これらの生徒（児童）の発言する「自分らしさ」のひとつひとつを、すべて肯定的に受容して受け止めるのが当然と思われる。

そして、「自分らしさ」が「小さくなったほうが良いか」「大きくなったほうが良いか」などと検討させることにより、生徒（児童）は、新学習指導要領に出てくる「自分らしさ」や「個性」や「自分」についても、新学習指導要領に出てこない「自分らしさ」や「個性」や「自分」についても、それぞれ客観化して考えるトレーニングを始めることになると思われる。

(3) 「発問4」で、「自分らしさは、大きくなると、他人とぶつかるのでしょうか。どう思いますか」

という発問を行った。

しかしそもそも「自分らしさ」のなかに、「他人」との関係のなかの「自分らしさ」や、「社会」の中の「自分らしさ」が含まれているように思える。

「やさしい」「あたたかい」「マンガ・アニメが好き」「自己主張する」「はずかしがりや」「他人を思いやる」「人を笑わせようと思っている（受けをねらっている）」など、ひとつひとつの「自分らしさ」を見てみると、「他人」や「社会」との関係を含みながら考えているように思う。

「自分らしさが大きくなると〇〇〇」と考えていくと、より強く「他人」や「社会」との関係で「自分らしさ」を考えることになると思う。

「新学習指導要領・生きる力・第3章道徳」で言えば、「主として自分自身に関すること」のみでなく、「主として他の人とのかかわりに関すること」や「主として集団や社会とのかかわりに関すること」も含んで考えることになると思う。

(4)「発問4 自分らしさは、大きくなると、他人とぶつかるのでしょうか。どう思いますか」についての（予想される生徒（児童）の発言）のなかで、「僕も「マンガ・アニメが好き」が自分らしいけれど、もっともっとマンガ・アニメが好きになるとマンガ・アニメが好きな友だちが増えていくと思う。他人とぶつかるというより、友だちが増えていく」という発言を予想した。

こういう発言があったとして、さらに、Twitter や Facebook など、自分らしさが同じ（似ている）友だちが増えていくことをイメージした発言が、次々続いていく場合があるかもしれない。

Twitter や Facebook などは、世界的な IT 化の流れのなかで大きく拡大しているネットワークであるが、メリットとデメリットがある。各学校では、Twitter や Facebook などについての対応がなされていると思われる。

時間をとって、メリットとデメリットをおさえたまきちんとした授業をすることも必要と思われる。

本時は、自分らしさの授業なので、Twitter や Facebook などをイメージした発言があっても、教師は、他の発言と同様に、淡々と受け止めるのが良い。

しかし徐々に同じような Twitter や Facebook などをイメージした生徒（児童）の発言が続くなら、教師は正面から対応する必要がある。といっても、教師が生徒（児童）の発言を禁止したり、怖い声を出したり、怖い表情をしてはいけない。授業の雰囲気がこわれてしまう。

教師は、淡々と次の発問をする。

補助発問 Twitter や Facebook などの自分らしさは、心のなかの自分らしさと同じでしょうか。どう思いますか。

指示 授業ノートの余白に書いてください。1分間です。

1分後、生徒（児童）の挙手による相互指名で発言を求めていく。

(5)「心のなかの自分らしさ」というのは、「自分が思う自分の人格全体のイメージ」といった感じの「自分らしさ」である。この「心のなかの自分らしさ」という表現は、若干意味が重いように思われる。しかしこの授業では、「自分らしさ」や「個性」や「自分」について客観化してほしいので、少し意味が重い「心のなかの自分らしさ」という表現を使ってみた。

上の（4）の補助発問「Twitter や Facebook などの自分らしさは、心のなかの自分らしさと同じでしょうか。どう思いますか。」も、少し意味が重い「心のなかの自分らしさ」という表現のほうが、「自

分らしさ」を客観化しやすいように思われる。

(6)「発問4 自分らしさは、大きくなると、他人とぶつかるのでしょうか。どう思いますか」についての(予想される生徒(児童)の発言)の最後で次のような発言を予想した。

- ・心のなかの自分らしさを考えているのだから、他人とはぶつからないようにできると思う。
- ・心のなかだけの自分らしさなんて、無いと思う。自分の外に出て、他人と関わりを持たなければ、自分らしさはわからない。
- ・他人には分からない「心のなかの自分らしさ」はあると思う。それを否定すると、自分でなくなってしまう。

このような発言が予想されるのは、そもそも「心のなかの自分らしさ」という表現を、「唯心論」的「観念論」的にとらえる余地が少しあるからである。すなわち「心のなかの自分らしさ」という概念に、少しあいまいなところがあるからである。

しかし、「やさしい」「気が強い」「恥ずかしがりや」などが「心のなかの自分らしさ」ですと、最初に言えば、生徒(児童)にはたいへんわかりやすく、考えやすいように思われる。

「発問4」において、上記の3つのような発言が出ることはまれと思うが、もしこうした発言があっても、道徳授業としてはもちろん、他の生徒(児童)の発言と同様に、淡々と受容的に受け止めると良いと思う。

注(1) ここで自由なグループで意見交流させるのは、藤井英之宮原小学校長先生のアドバイスによる。

(2) ここでチョーク・リレーで、生徒(児童)に意見を発表させるのは、下田喜久恵宮原小学校教頭先生の実践にもとづく。

参考文献：自分(私)や他人(他者)などに関して、末木文美士『哲学の現場—日本で考えるということ—』(トランスビュー、2012年)を参照。

後注：本稿は、藤井英之先生・下田喜久恵先生を始めとする有田市立宮原小学校の先生方との議論に負うところがあります。なお誤りがある場合は、すべて宮崎に責任があります。